

(様式第4号)

上田市交流文化芸術センター運営協議会 会議概要

1 審議会名	第2回 上田市交流文化芸術センター運営協議会
2 日時	令和2年10月30日 午後2時から午後3時45分まで
3 会場	上田市交流文化芸術センター多目的ルーム
4 出席者	荒井洋文委員、岩木功委員、島田和子委員、関和幸委員、田中美恵子委員、平田利江子委員、山寺高太郎委員、吉本永喜委員
5 市側出席者	柳原政策企画部長、西田館長、荻原総合プロデューサー、久保田副館長、小澤プロデューサー、小泉舞台技術係長、宮下広報等係長、堀内総務係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人
8 会議概要作成年月日	令和2年11月11日

協 議 事 項 等

第2回 交流文化芸術センター運営協議会

1 開会 (久保田副館長)

2 あいさつ (西田館長)

3 会議事項

○交流文化芸術センター第2期運営管理計画について

事務局 (久保田副館長) から交流文化芸術センター第2期運営管理計画 (I～II) について説明

I 開館からの5年間の総括と今後の基本姿勢

【質疑】

委員長から

「ただいまの事務局からの説明について質問のある方はお出してください」

【委員】

「地域社会から喜ばれる」といった表現を入れていただきたい。

3億を超える運営費がかかっている。財政状況が悪化してくると、教育・音楽関係者だけではなく一般の方々から理解され、地域社会から喜ばれる施設であることが必要であると思う。

【事務局】

「展望するには・・・」の段落の後段に表現を追加する。

【委員】

「シビックプライド」の表現がわかりにくいのではないかと。

【事務局】

市の他の計画でも用いており、市長も用いている表現なのでご理解いただきたい。

【委員 1】

基本方針について「育成」が中心に書かれているが、どんな人を育てるのか、ターゲットとしているのか、どんな社会を目指しているのかが見えない。

社会の価値観を捉えなおしていくのが劇場であり、新たな価値観を発信していくのが劇場ではないかと思う。

育成という言葉ばかりが目につき、芸術や劇場の価値観・思想がはっきりしないと思う。そのような状況の中で「育成」を掲げてもわかりにくい。芸術や劇場の持つ価値を盛り込んだほうがいいのではないか。

【委員 2】

思想と伺ったけれども深い内容である。そこまで深いものを追求すると一般市民に分かりにくくなってしまうのではないかと思う。

【事務局】

当初運営計画には育成に係る背景の記載がある。劇場として一つの方向性に集約してしまうのは逆に危険。現在は多様性が認められることが求められており、多様性に寛容な社会が求められている。そういった社会の動向性を捉えながら、様々な芸術活動を発信・支援していくことが大事ではないかと考える。

【委員 1】

私の申し上げたかったのは一つの方向性に集約することではなく、事務局の説明のとおり、サントミュージーゼに来れば様々な芸術に触れることができ体験できることで、多様性を受け入れる感性が育ち、育成につながる。それが劇場の価値であると思う。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。劇場の価値観等の表現を盛り込むことについて検討させていただきます。

【委員】

5年間の表現があいまいではないか。

【事務局】

表現を検討します。

なお、育成を基本理念とした当初の運営計画についてはそのままであるのでご理解いただきたい。

【委員】

当初運営計画の1ページ目の基本理念(の概念図)がわかりやすいので、このページを入れてはどうか。

【委員】

ページを追加するよう検討します。

II 今後の事業の実施方針について

【委員】

アウトリーチ活動も含め、全体的に音楽事業が多いように思う。演劇についてもアウトリーチ活動や鑑賞事業も行っている。多様性といった価値観も踏まえると演劇事業の表記ももう少し入れていただけると、バランスがいいのではないか。

【事務局 1】

音楽事業と同数を計画するのは、経費や手間の部分で難しい。ただ、リーディング公演であるとか、やり方によってアウトリーチにも取り入れることができる。検討は必要であるように思う。

【事務局 2】

アウトリーチ活動については、受け入れる側の学校側のスケジュールや求められていることがあるので、現場の意見の確認が必要である。

【委員 1】

演劇のすばらしさについては理解しており、演ずることの価値は子どもたちも理解できると思う。ただ、現場としては演劇の需要についてはそこまで高まっていない。演劇事業をカリキュラムに取り込むことは現実的には難しい。

【委員 2】

音楽とリーディング劇を組み合わせることはできないか。自己表現することの大切さの教育につながるのではないか。

【事務局】

コロナ禍の影響により中止となったが、本来であれば、今年度、県のモデル事業で演劇を活用したアウトリーチ事業を計画し、アクティブラーニングにつながる事業の実施を予定していた。また、音楽だけではなくダンスによるアウトリーチ事業も実施しており、年々実施希望する学校が増えている状況であり、新年度はできる限り実施してまいりたい。

【委員】

コロナ禍の影響により、対面が難しければ校内放送などでリーディングの提供等のやり方もあるので検討していただきたい。(要望)

【委員】

地域での活動で福祉施設等との表現があるが、障がい者施設も入っているのか。

【事務局】

養護学校でもアウトリーチ活動を実施しており、障がい者施設も福祉施設に含まれている。

【委員】

音楽事業だけではなく、古典芸能等の他のジャンルもあるので学校の希望も聞いてみてもいいのではないか。(要望)

コミュニティスクール事業との切り分けはどうか。

【事務局】

コミュニティスクール事業については教育委員会の主幹事業なので、今後確認する。

【委員 1】

コロナ禍の影響で地域との関係が途切れてしまっているが、総合的学習で生徒の希望をきき、地域と連携できる部分もある。(参考意見)

【委員】

公民館事業との住み分けはどうか。やっている内容は近いように思う。線引きはどうか。

【事務局】

公民館事業は公民館法に基づいて、その公民館の地域の方を対象に生涯学習の事業として実施している。

当館の事業は劇場法に基づいて実施しており、すべての地域を対象としている。

小学校アウトリーチ事業については、全小学校を対象として実施している。また、地域ふれあい事業についても市内全9地域の公民館で実施している。

公民館はあくまでも対象となる地域の生涯教育活動。当館の事業は、市全域を対象としている。

【委員】

了承

【事務局】

90年代までの劇場はホールの上で事業を実施しているだけであった。集客するだけであった。

その後、芸術文化が、地域振興であるとか観光・産業などにもリンクして活用できるツールであることが叫ばれてきた。しかしながら、社会教育とも被る部分があるので、目的をはっきりさせる必要があるように思う。

【委員 1】

コミュニティスクール事業のこともあるが、客観的に子供たちを見ていると、サントミュージゼから来たということが価値となっているように思う。全25校に一流のアーティストを派遣するというのは、サントミュージゼだからできることだと思う。

【委員 2】

当初運営計画に掲載のあった総合的事業（フェスティバル事業）が、第2次計画では地域コミュニティ事業となっていることや、市民サポーター事業についても当初計画から内容が変わっているように思う。市民サポーターをもっと活用したほうがいいのではないか。

【事務局】

サポーター事業については今年度も36名が登録されており、自主事業の際には、チラシの挟み込み、ふれあい事業の会場の整理等、お手伝いいただいている。

事業内容については、計画どおり実施できたものもあるし、できなかったものもある。改めて事業内容を精査して、今後の事業計画を見直したものであり、より市民に近い事業計画として進めてまいりたい。

【委員】

地域のアーティストとの連携事業についてはどれぐらいの（数の）アーティストを想定しているか。

【事務局】

上田市内のみならず東信地域には多くのアーティストが活躍しているが、具体的な人数についてはこれから把握してまいりたい。

— その他質問なし —

【事務局】

時間の都合上、本日の協議はここまでとさせていただきたい。

【委員長】

本日の会議事項が終了しましたので、進行を事務局に戻します。

4 その他

【事務局】

次回、第3回の協議会は11月17日（火）午前9：30から、会場は本日と同じこの会場（多目的ルーム）で開催いたします。よろしくお願いいたします。

【委員】

了承

5 閉 会